

復興推進会議（第 36 回）議事要旨

1 日 時：令和 4 年 12 年 27 日（火） 9:42～9:55

2 場 所：官邸 2 階 大ホール

議事の概要：

（１）福島国際研究教育機構（F-REI）の設立準備状況について

資料 1 に基づき、秋葉復興大臣から報告が行われた。

（２）福島国際研究教育機構に関する関係閣僚会議の設置について

資料 2 に基づき、秋葉復興大臣から説明が行われ、本会議において決定された。

（３）出席者からの発言

上記に関して、出席者から

- 放射線科学・創薬医療分野における放射性同位元素の先端的な医療利用及び創薬技術開発の推進、環境動態分野における放射性物質の環境動態の解明や取組発信の推進など、今後実施する研究開発等について検討を進めること
- 「標的アイソトープ治療」等の革新的な治療法の実用化を目指しつつ、F-REI における取組が日本全体の成長に資するよう尽力すること
- 被災地の方々等の意見を踏まえ、福島県や世界に共通する農林水産業の課題解決に貢献する新たな生産システムの実証研究を推進すること
- 研究テーマとして提案しているロボットやエネルギー、放射線の産業利用等の本格的な実施に向けて準備を進めるとともに、研究開発成果の

産業化や地元での雇用創出に向けた取組を進めること

- 放射性物質の環境中の挙動解明に関する研究を通じた環境回復や、地域の水素ネットワークの構築を通じた脱炭素と災害に強いまちづくりに貢献すること
- 第6期科学技術・イノベーション基本計画等に基づく我が国の科学技術政策、第2期健康・医療戦略に基づく医療分野の研究開発を推進する観点から貢献すること
- F-REI が科学技術・産業競争力の強化、人材育成等の面でも、我が国を牽引する取組となるよう、長期・安定的な運営に向けた政府内における必要な調整を図ること

等について発言があった。

(6) 内閣総理大臣挨拶

最後に、岸田内閣総理大臣から、下記の発言があった。

- 東日本大震災から11年以上が経過する中、復興は着実に進展しているが、その一方で、原子力災害からの復興・再生には、今後も中長期的な対応が必要。
- その中で、「創造的復興」の中核拠点となるべき福島国際研究教育機構、F-REI については、来年4月の設立に向け、関係府省庁の全面的な参画の下、人的体制の整備をはじめ、F-REI 設立後の長期・安定的な運営を支える組織体制・財政基盤の構築について政府を挙げて取り組むこととしてきた。
- F-REI の成功は、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を図る上でも欠かせないものであり、与党からも積極的な推進を求める提言をいただいていた。本日の会議では、F-REI の設立に向けた準備状況を共有し、令和11年度までの第1期中期計画期間に係る事業規模を1,000億円程度と見込む

ことをお示しした。また、復興庁の設置期間終了後も見据えた長期・安定的な司令塔機能として、本会議の下に、内閣官房長官を議長とする「福島国際研究教育機構に関する関係閣僚会議」を開催することを決定した。

- 今後、F-REI が福島・東北の復興を実現する夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引する存在となるよう、福島県をはじめとする関係機関と連携しながら、取組を進めていただきたい。
 - また、福島の復興はいまだ途上にあり、その長期的な課題に対応していくため、F-REI をはじめとする息の長い取組を支援できるよう、復興に要する財源については、政府を挙げて責任を持って確実に確保してまい
 - 「東北の復興なくして、日本の再生なし」。
- 引き続きこの強い決意の下、「閣僚全員が復興大臣である」という意識で、被災地の復興に取り組んでいただきたい。

(以上)